

口永良部島の火山活動解説資料（平成 21 年 7 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

GPS 連続観測では、新岳火口浅部の膨張を示す変化は認められなくなりました。また、火山性微動の発生はなく、火山性地震も少ない状態が続いています。

これらのことから、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断して、8月4日（期間外）に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引下げ、火口周辺警報を解除しました。

火口内では噴気や火山ガスの噴出がみられることから、火口内等（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）では警戒が必要です。

○ 7月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図2）

遠望カメラ（新岳火口の北西約3km）の観測では、新岳火口から白色噴煙が時々観測されました。

・地震や微動の発生状況（図2、図4）

火山性地震は少ない状態で経過しました。震源は新岳火口直下のごく浅いところに求まり、これまでと比べて特段の変化はありませんでした。

火山性微動は、5月23日以降観測されていません。

・地殻変動の状況（図2、図3）

GPS 連続観測では、2008年9月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化が、2009年2月頃から鈍化し、6月以降認められなくなりました。

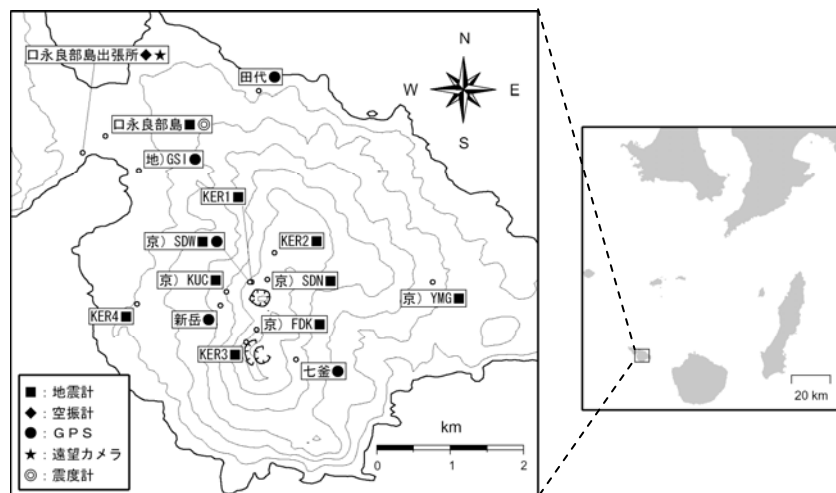


図1 口永良部島 観測点配置図

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 8 月分）は平成 21 年 9 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

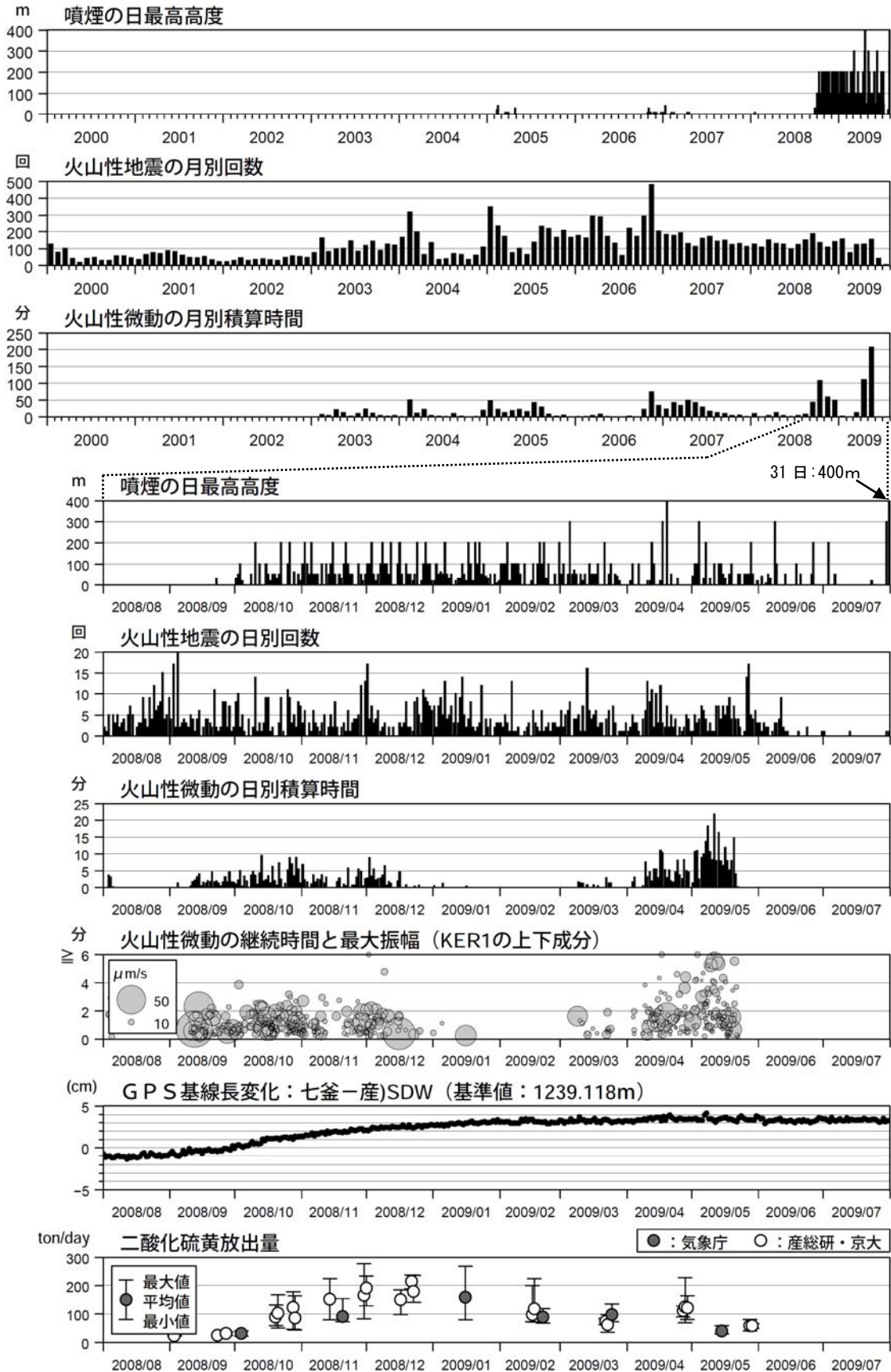


図 2※ 口永良部島 火山活動経過図 (2000 年 1 月~2009 年 7 月)

< 7 月の活動状況 >

- ・新岳火口から白色噴煙が時々観測されました。
- ・火山性微動は観測されませんでした。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。

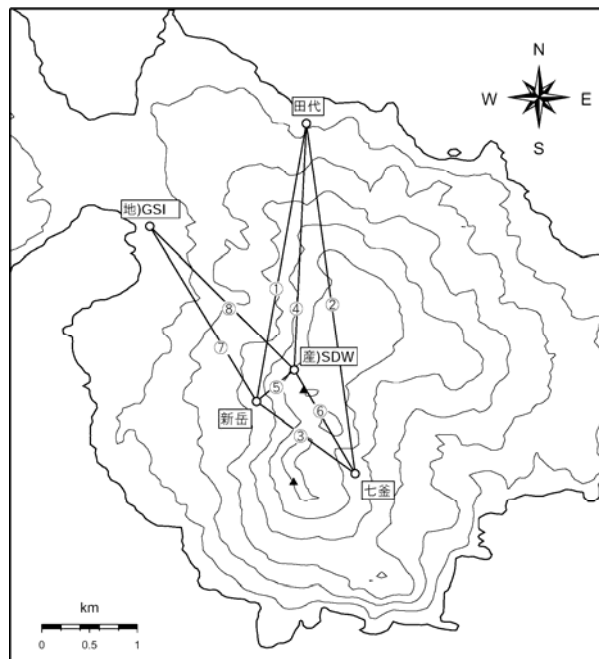
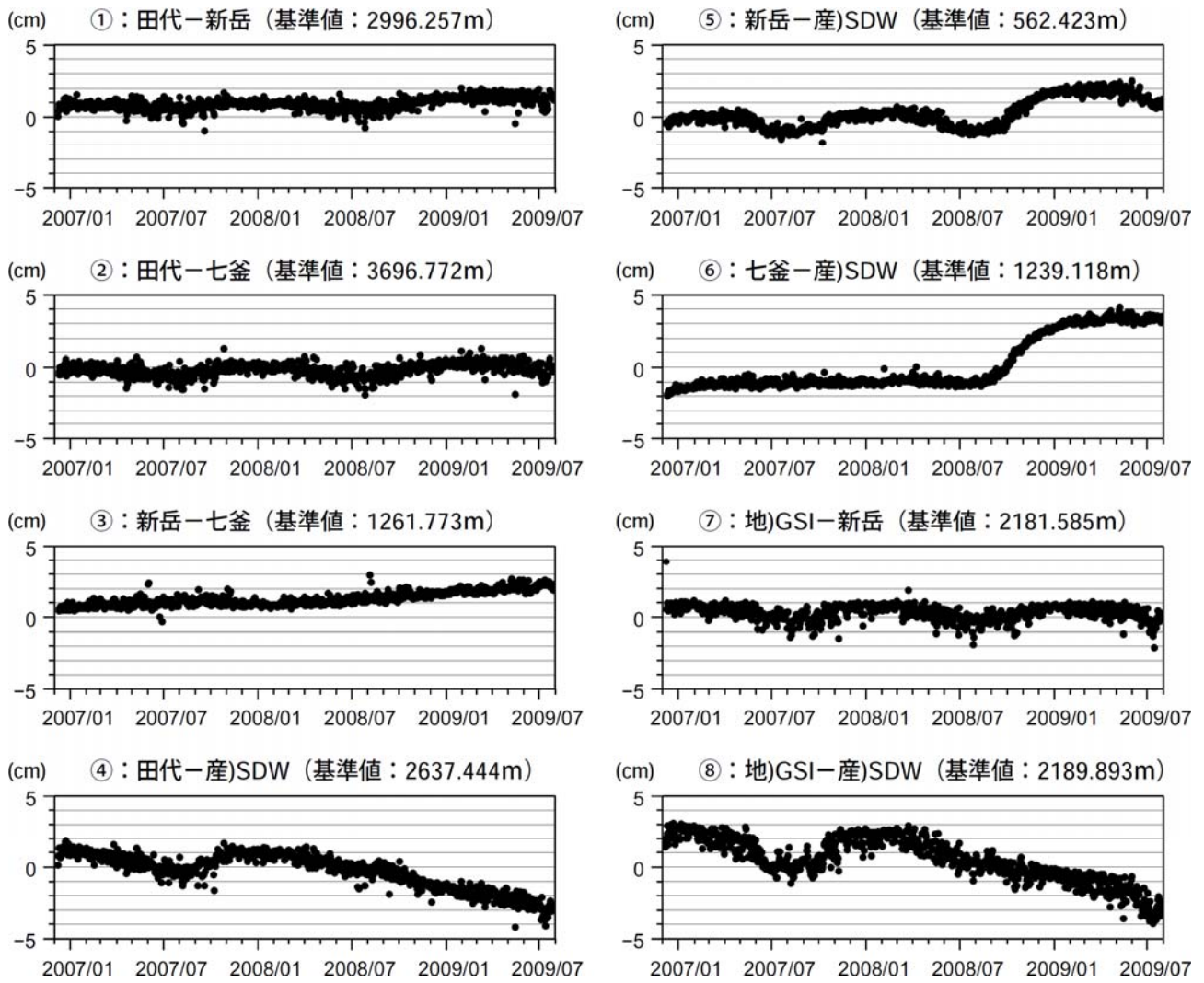


図 3※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2006 年 12 月～2009 年 7 月)
 2008 年 9 月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化が、2009 年 2 月頃から鈍化し、6 月以降認められなくなりました。

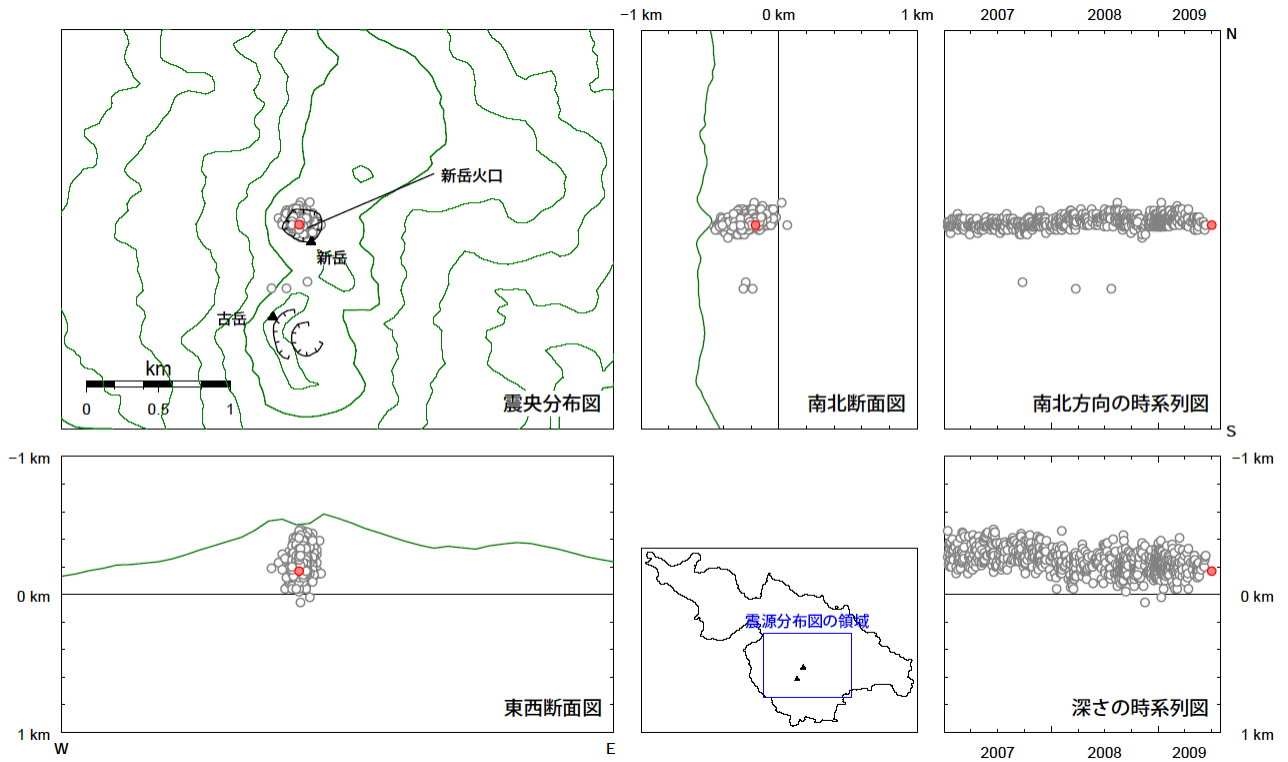


図 4※ 口永良部島 震源分布図 (2007 年 1 月～2009 年 7 月)
 < 7 月の活動状況 >
 火山性地震の震源は新岳火口直下のごく浅いところに求まりました。